

放課後等デイサービス事業所における自己評価結果(公表)

公表:令和2年3月12日

事業所名 キッズサポートクラブあしたばプラス

		チェック項目	はい	どちらとも いいない	いいえ	工夫している点	課題や改善すべき点を踏まえた 改善内容又は改善目標
環境・ 体制整備	1	利用定員が指導訓練室等スペースとの関係で適切である	3	3		・学習室がいっぱいになる時間があったり、波がある。その場合には、自由時間等を設けて人数を調整しながら学習させている(学習課題については基本的には終われるよう設定)。	・スペースな明確な区別がもっと必要である。
	2	職員の配置数は適切である	4	1			・片付け(子ども)がやりやすいような方法を考えるべきだと思う。職員数がいてもその辺の指導が出来ていない。
	3	事業所の設備等について、バリアフリー化の配慮が適切になされている	1	2	2	・階段の乗降に関しては職員間でルール化して徹底的に安全確保に努めている。	・二階に事業所があり、物理的に受け入れが難しい児童もいる。 ・バリアフリーではない
業務改善	4	業務改善を進めるためのPDCAサイクル(目標設定と振り返り)に、広く職員が参画している	1	1	3		
	5	保護者等向け評価表を活用する等によりアンケート調査を実施して保護者等の意向等を把握し、業務改善につなげている		4			・アンケートを取り、具体的改善策に繋げる為、会議を行う必要を感じる。
	6	この自己評価の結果を、事業所の会報やホームページ等で公開している	1	2	1		
	7	第三者による外部評価を行い、評価結果を業務改善につなげている		1	3		
	8	職員の資質の向上を行うために、研修の機会を確保している		2	2	・常勤職員には、1日の振り返りの時間を翌日に設けてすぐにFB(フィードバック)している。	・必要に応じてミーティングをおこなっているが、研修とまではいかない。
適切な支援の提供	9	アセスメントを適切に行い、子どもと保護者のニーズや課題を客観的に分析した上で、放課後等デイサービス計画を作成している	2	2			・学校での様子をもっと聞き取れるようになり、支援に活かせるような努力はもっと必要。 ・職員間での細かい情報共有が出来ていない(子どもの特徴、課題、内容)。適切な支援内容を職員間で話し合う機会が無く、現状を理解することが難しい。
	10	子どもの適応行動の状況を把握するために、標準化されたアセスメントツールを使用している	1	2	1		
	11	活動プログラムの立案をチームで行っている		3	2		・以前に比べ、パートさんも含め、考えるようにはなったが、個人で活動の立案をする形が多い。
	12	活動プログラムが固定化しないよう工夫している	2	3		・日単位でいうと継続の必要性を考えはいるが、年単位では結構変えている。 ・週二回は運動活動を取り入れるようにしている。	
	13	平日、休日、長期休暇に応じて、課題をきめ細やかに設定して支援している	1	2		・一部の児童については、休日に向けた課題設定をしている。	
	14	子どもの状況に応じて、個別活動と集団活動を適宜組み合わせ放課後等デイサービス計画を作成している	2	1		・1日の中で、設定された活動を組み入れることで、個別支援計画へのアプローチをしている。	・職員間での細かい情報共有が出来ていない(子どもの特徴、課題、内容)。適切な支援内容を職員間で話し合う機会が無く、現状を理解することが難しい。
	15	支援開始前には職員間で必ず打合せをし、その日行われる支援の内容や役割分担について確認している	3	1	1	・勤務開始が異なる職員においてもプリーフィングの時間を設けている。	
	16	支援終了後には、職員間で必ず打合せをし、その日行われた支援の振り返りを行い、気付いた点等を共有している	2	2	2	・時期によって異なり、振り返りよりも夏休み等には職員の休息を大事にしている。	・退勤時間が全員同じではない為、全員での打ち合わせの時間が設定しにくい。
	17	日々の支援に関して正しく記録をとることを徹底し、支援の検証・改善につなげている	4	2		・早めに記録を取ることで、記憶との差が出ないようにしている。また、モニタリングの際に根拠事例として活用している。	
18	定期的にモニタリングを行い、放課後等デイサービス計画の見直しの必要性を判断している	1	3			・モニタリングの頻度などは検討すべき。	

	チェック項目	はい	どちらとも いえない	いいえ	工夫している点	課題や改善すべき点を踏まえた 改善内容又は改善目標
19	ガイドラインの総則の基本活動を複数組み 合わせて支援を行っている	1	2			

		チェック項目	はい	どちらとも いえない	いいえ	工夫している点	課題や改善すべき点を踏まえた 改善内容又は改善目標
関係機関 や保護者との 連携	20	障害児相談支援事業所のサービス担当者会議にその子どもの状況に精通した最もふさわしい者が参画している	2	2		・必要に応じて他の職員を参加させ、対応できる職員を増やせるよう努めている(直接支援以外の部分でのスキルアップ)。	
	21	学校との情報共有(年間計画・行事予定等の交換、子どもの下校時刻の確認等)、連絡調整(送迎時の対応、トラブル発生時の連絡)を適切に行っている	2	2		・特にお迎えの際には、引継ぎを明確にするよう努めている。	
	22	医療的ケアが必要な子どもを受け入れる場合は、子どもの主治医等と連絡体制を整えている	1	1	1		
	23	就学前に利用していた保育所や幼稚園、認定こども園、児童発達支援事業所等との間で情報共有と相互理解を行っている	1	1	1	・ケースによっては不安の強い児童や保護者がいるので、その場合には許可を得たうえで事業所として児の特性について情報を提供している。	
	24	学校を卒業し、放課後等デイサービス事業所から障害福祉サービス事業所等へ移行する場合、それまでの支援内容等の情報を提供する等している		1	1	・まだ該当する児童がいない	・職員自体の経験も少ないので、今のうちに他事業所との繋がりををもって理解を深め、実践を迎える必要があると思う。
	25	児童発達支援センターや発達障害者支援センター等の専門機関と連携し、助言や研修を受けている		1	2		
	26	放課後児童クラブや児童館との交流や、障がいのない子どもと活動する機会がある		1	2		・地域の活動等、催しに参加したいが、人混みが多い場合の安全確保をする必要があり、人的配置によってしか対応できないのか、もっと考慮しなければいけない。
	27	(地域自立支援)協議会等へ積極的に参加している		1	2		・研修へ参加したことはあるが、会議に参加をしたことはない
	28	日頃から子どもの状況を保護者と伝え合い、子どもの発達の状況や課題について共通理解を持っている	2	2		・少し先の見立て等も踏まえて保護者に伝えるように努めている。	・ケースによって、保護者と連絡が取りづらい場合もある
	29	保護者の対応力の向上を図る観点から、保護者に対してペアレント・トレーニング等の支援を行っている		1	2		
保護者への 説明責任等	30	運営規程、支援の内容、利用者負担等について丁寧な説明を行っている	2	1		・受給者証の利用者負担額が変わった時には丁寧に説明をし、お出かけの際に利用者負担が出る場合などには書面をもって確認をしている。	
	31	保護者からの子育ての悩み等に対する相談に適切に応じ、必要な助言と支援を行っている	2	1		・お送り時やふとしたタイミングで相談があった際には、内容によって対応できる職員がしっかりと返答している。	
	32	父母の会の活動を支援したり、保護者会等を開催する等により、保護者同士の連携を支援している		1	3		・ピアサポートの必要性を感じてはいるが、児童の支援をしている時間帯と被っている為、職員の配置が難しい場合がある。
	33	子どもや保護者からの苦情について、対応の体制を整備するとともに、子どもや保護者に周知し、苦情があった場合に迅速かつ適切に対応している	4	1		・初動を大切にしている。	
	34	定期的に会報等を発行し、活動概要や行事予定、連絡体制等の情報を子どもや保護者に対して発信している	5				
	35	個人情報に十分注意している	5	1			
	36	障がいのある子どもや保護者との意思の疎通や情報伝達のための配慮をしている	3	1		・これまでは、連絡手段を電話のみとしていたが、時代背景もありLINEも活用している。	
	37	事業所の行事に地域住民を招待する等地域に開かれた事業運営を図っている		1	2		

	チェック項目	はい	どちらとも いえない	いいえ	工夫している点	課題や改善すべき点を踏まえた 改善内容又は改善目標	
非常時等の 対応	38 緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症対応マニュアルを策定し、職員や保護者に周知している	2	3			・マニュアルは作成している(と思う)が、周知できているか、よく分からない。自由に見てよいものか確認したい。	
	39 非常災害の発生に備え、定期的に避難、救出その他必要な訓練を行っている	3	1				
	40 虐待を防止するため、職員の研修機会を確保する等、適切な対応をしている	1	1	2			
	41 どのような場合にやむを得ず身体拘束を行うかについて、組織的に決定し、子どもや保護者に事前に十分に説明し了解を得た上で、放課後等デイサービス計画に記載している			1	1		・身体拘束等についての事由が発生したことがない。
	42 食物アレルギーのある子どもについて、医師の指示書に基づく対応がされている	3	1		・ケースによっては診断書を確認して対応している。		
	43 ヒヤリハット事例集を作成して事業所内で共有している	4	1			・小さなヒヤリハットをもっと拾い上げて積み重ねることによって事故を未然に防ぐ努力は必要。	